

[本校]〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1

tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690

[新潟中央キャンパス]〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169

tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7117

http://www.nuis.ac.jp somu@nus.ac.jp

平成23年4月15日 発行

Vol.50

&



平成23年度入学生 322人おめでとう

平成23年度（第18回）の入学式が4月1日、本校体育館で行われ新入生322人（情報文化学科128人・編入生2人、情報システム学科192人）が、みずき野キャンパスでの学生生活をスタートさせました。期待に胸膨らます新入生に、平山征夫学長は式辞で「人間としての自立の基礎を築き、探求の旅を今スタートさせ、学び、考え、また学び、知識を広げよ」と激励しました。また関根秀樹理事長も「大いに青春謳歌すべきだが、大いに学ばなければ謳歌の意味は半減する。積極的な学生生活を送つてほしい」と新入生の健闘を期待しました。

在学生を代表し情報システム学科3年の五十嵐司さんが「自ら考え行動し、多くの友人と関わり、サークル活動を楽しみました。

入って早速ガイダンスに臨みました。式典に先立ち3・11東日本大震災の犠牲者に黙祷し、学長・理事長とともに地震、大津波、原発事故の三重災害の被災地の復興に寄与することに触れて挨拶を行いました。また、学友会は卒業式に引き続いだ義援金を呼びかけ、新入生と父母たちが募金に協力していました。

全方位で学び知識を広げよ 探求の旅、今スタート

しみ、自らの可能性を広げてください」と歓迎の言葉を述べ、これに対し新入生代表の情報文化学科の今泉将人さんが「何事にも積極的に取り組み、新しいことに挑戦し、自己を成長させたいと思います」と決意と抱負で応えました。

恒例の派遣留学・夏期セミナー提携5大企業からの祝福ビデオメッセージも披露され、式典後には、各サークルの勧誘と歓迎を受けた新入生たちは、新たな夢を描きつつ校舎に



CONTENTS

(2・3面)

入学式特集

学長式辞 理事長あいさつ

新入生代表・私の抱負

在校生代表・歓迎の言葉

(4・5面)

学部長、両学科長の激励
新任教員紹介2人
退任教員あいさつ
湧 源

(6・7面)

派遣留学・夏期セミナー帰国報告会
オープンキャンパス案内
(8面)
卒業生の惜別と決意
教員の活動(2011年下半期追加)

(9面～12面)

平成22年度卒業式特集
学長式辞、理事長・来賓祝辞
JABEE認定で修了証書
卒業生答辞
特別表彰 式典スナップ

入学式

学長式辞

新潟国際情報大学長
平山 征夫

**青春の情熱を燃やそう
将来展望の道を見出せ**

理事長挨拶

学校法人 新潟平成学院
理事長 関根 秀樹

災害復興の人材育成も 大学の最も重要な使命

本日、新潟国際情報大学は皆さんを新しく迎えることができました。これは、今まで多年にわたる勉学の努力によるものであります。心から敬意を表します。大学の設置母体であります学校法人としても、本学にとりましても大きな喜びであり、皆さんの入学を心から歓迎いたします。

皆さんには、これから大学の中でさまざまな学生生活を送ることになります。文化活動はじめ、いろいろな部活動、あるいはスポーツも良いであります。青春を大いに謳歌すべきであります。しかしながら、本来「大学は学ぶ場所」であります。大いに学ばなければ「謳歌」の意味は半減します。その為には、大いに書物を読み、良き師を求め、良き友を求め、議論もして、積極的な学生生活を送ることが必要であります。

4年後には卒業して社会に出て働くことになります。学生生活の中で「将来何にならう」というか、「そのためには知識を広め、教養を高め、どういう専門的な勉強をすべきか」「自分の目指す方向を新潟国際情報大学にいる4年間でしっかりと身に付けてほしいと願つております。

今こそ国民全員が、被災地の人々を支え、日本の復興に全力をあげるべきときであります。私は、皆さんの大学生活が充実したものに臨みます。人生を通じて新潟国際情報大学にいる4年間でしっかりと身に付けてほしいと願つております。

入学式などの入学手続きを変更せざるを得ない中で、本学では本日入学式を開催できます。大学教育の第1の役割は、教育研究活動であることはいうまでもありませんが、教育を通じてこの災害に立ち向かい、復興していくための人材を育成することは、大学の最も重要な使命であると考えます。

本学は本日、平成6年の開学以来18回目

ゆけることを楽しみにしています。

本年は情報文化学科130名、情報システム学科192名、合わせて322名の新入生を迎えることができました。本学の建学の理念であります「わが国の社会・文化についての認識と理解を基礎に、国際化、情報化の社会の中で役に立ち、能力があり、意欲があり、人間性豊かな人物を育成する」という目的に向かって私たち教職員一同、皆さん

が意義深い大学生活を送ることができます。また、皆さんも自らの人間としての自立の基

礎をこの大学で築くべく勉学に日々励んでください。

入学式に当たり学長として本学での皆さんの大学生生活で期待することと、心がけて貰いたいことを申し上げます。

大学は高等教育を受ける場です。皆さんには本学で高等教育を受けるという選択をして下さい。それは、先ほど申し上げた本学の建学の理念や専門分野に興味を持たれたからで、大學の理念や専門分野に興味を持つたと自説しています。本日皆さんを新たに迎え一緒に本学のさらなる歴史を刻んで

入学式を迎えることができました。毎年春には卒業生を送り出し、新たな仲間を迎えて本学としての歴史を刻んできました。先輩教職員、卒業生らの努力もあって短い歴史ですが、多くの有能な人材を送り出すことができ、徐々に地域から信頼される大学になつてきましたと自説しています。本日皆さんを新たに迎え一緒に本学のさらなる歴史を刻んで

す。東日本大震災について触れたいと思います。大震災が発生して21日目となりました。かつてない大規模な震災と大津波、そしてそれによって発生した原子力災害により多くの尊い命が失われたうえ、未だ多く行方不明の方がおられますほか、被災された多くの方が今も不便な避難生活を強いられています。只今、黙祷を皆さんと一緒に捧げさせていただきましたが、亡くなられた方々のご冥福をあらためてお祈り申し上げますとともに、被災された方々にも心からのお見舞いを申し上げます。

被災された方々のご冥福をあらためてお祈り申し上げますとともに、被災された方々にも心からのお見舞いを申し上げます。

被災された方々の避難所生活をより厳しくなものにしていました寒さも漸く和らぎ、みずき野にも遅かった春が巡つてしまいまし

た。そして今年もキャンパスに新たな仲間を迎えることができました。新入生の皆さんに対し、本学教職員はじめ関係者を代表して心よりお祝い申し上げますとともに、歓迎申し上げたいと思います。おめでとうござります。

今日から皆さんは本学の学生として新しい生活をスタートするわけです。今、入学式に臨み皆さんの胸中は大学生活への大きな期待と少しの不安で満たされていることでしょう。

本学は本日、平成6年の開学以来18回目

の入学式を迎えることができました。毎年春には卒業生を送り出し、新たな仲間を迎えて本学としての歴史を刻んできました。先輩教職員、卒業生らの努力もあって短い歴史ですが、多くの有能な人材を送り出すことができ、徐々に地域から信頼される大学になつてきましたと自説しています。本日皆さんを新たに迎え一緒に本学のさらなる歴史を刻んで

す。東日本大震災について触れたいと思いま

す。大震災が発生して21日目となりました。かつてない大規模な震災と大津波、そしてそれによって発生した原子力災害により多くの尊い命が失われたうえ、未だ多く行方不明の方がおられますほか、被災された多くの方が今も不便な避難生活を強いられています。只今、黙祷を皆さんと一緒に捧げさせていただきましたが、亡くなられた方々のご冥福をあらためてお祈り申し上げますとともに、被災された方々にも心からのお見舞いを申し上げます。

被災された方々のご冥福をあらためてお祈り申し上げますとともに、被災された方々にも心からのお見舞いを申し上げます。

被災された方々の避難所生活をより厳しくるものにしていました寒さも漸く和らぎ、みずき野にも遅かった春が巡つてしまいまし

た。そして今年もキャンパスに新たな仲間を迎えることができました。新入生の皆さんに対し、本学教職員はじめ関係者を代表して心よりお祝い申し上げますとともに、歓迎申し上げたいと思います。おめでとうござります。

今日から皆さんは本学の学生として新しい生活をスタートするわけです。今、入学式に臨み皆さんの胸中は大学生活への大きな期待と少しの不安で満たされていることでしょう。

本学は本日、平成6年の開学以来18回目

の入学式を迎えることができました。毎年春には卒業生を送り出し、新たな仲間を迎えて本学としての歴史を刻んできました。先輩教職員、卒業生らの努力もあって短い歴史ですが、多くの有能な人材を送り出すことができ、徐々に地域から信頼される大学になつてきましたと自説しています。本日皆さんを新たに迎え一緒に本学のさらなる歴史を刻んで

す。東日本大震災について触れたいと思いま

す。大震災が発生して21日目となりました。かつてない大規模な震災と大津波、そしてそれによって発生した原子力災害により多くの尊い命が失われたうえ、未だ多く行方不明の方がおられますほか、被災された多くの方が今も不便な避難生活を強いられています。只今、黙祷を皆さんと一緒に捧げさせていただきましたが、亡くなられた方々のご冥福をあらためてお祈り申し上げますとともに、被災された方々にも心からのお見舞いを申し上げます。

被災された方々のご冥福をあらためてお祈り申し上げますとともに、被災された方々にも心からのお見舞いを申し上げます。

被災された方々の避難所生活をより厳しくるものにしていました寒さも漸く和らぎ、みずき野にも遅かった春が巡つてしまいまし

た。そして今年もキャンパスに新たな仲間を迎えることができました。新入生の皆さんに対し、本学教職員はじめ関係者を代表して心よりお祝い申し上げますとともに、歓迎申し上げたいと思います。おめでとうござります。

今日から皆さんは本学の学生として新しい生活をスタートするわけです。今、入学式に臨み皆さんの胸中は大学生活への大きな期待と少しの不安で満たされていることでしょう。

本学は本日、平成6年の開学以来18回目

の入学式を迎えることができました。毎年春には卒業生を送り出し、新たな仲間を迎えて本学としての歴史を刻んできました。先輩教職員、卒業生らの努力もあって短い歴史ですが、多くの有能な人材を送り出すことができ、徐々に地域から信頼される大学になつてきましたと自説しています。本日皆さんを新たに迎え一緒に本学のさらなる歴史を刻んで

す。東日本大震災について触れたいと思いま

す。大震災が発生して21日目となりました。かつてない大規模な震災と大津波、そしてそれによって発生した原子力災害により多くの尊い命が失われたうえ、未だ多く行方不明の方がおられますほか、被災された多くの方が今も不便な避難生活を強いられています。只今、黙祷を皆さんと一緒に捧げさせていただきましたが、亡くなられた方々のご冥福をあらためてお祈り申し上げますとともに、被災された方々にも心からのお見舞いを申し上げます。

被災された方々のご冥福をあらためてお祈り申し上げますとともに、被災された方々にも心からのお見舞いを申し上げます。

被災された方々の避難所生活をより厳しくるものにしていました寒さも漸く和らぎ、みずき野にも遅かった春が巡つてしまいまし

た。そして今年もキャンパスに新たな仲間を迎えることができました。新入生の皆さんに対し、本学教職員はじめ関係者を代表して心よりお祝い申し上げますとともに、歓迎申し上げたいと思います。おめでとうござります。

今日から皆さんは本学の学生として新しい生活をスタートするわけです。今、入学式に臨み皆さんの胸中は大学生活への大きな期待と少しの不安で満たしていることでしょう。

本学は本日、平成6年の開学以来18回目

きな画家の一人である安野光雅さんが在日朝鮮人のおばあさんに教えてもらつた美しい日本語として紹介しておられた言葉があります。「ヒトリダマリノミチナガイ、フタリハナシノミチカイ」という味はわかるでしょう。フタリハナシノミチを見つけてください。

大学生生活はこれまでに比べ格段に自由です。授業に出るか、クラブ活動に出るか、アルバイトするかなど、日々の行動は自分で決めます。安きに流れればどこまでも流れます。自由に溺れて怠惰に意味なく



新入生代表 情報文化学科

今泉 将人

私の抱負

国際的な広い視野で 情報理解する力を

本日は、私たち新入生のために、このようすばらしい入学式を挙行していただき誠にありがとうございます。また、数々のお祝の言葉、激励の言葉をいただき感謝しておりますとともに、身の引き締まる思いです。現在、我々の日常生活を取り巻く状況は、日々刻々と進歩しています。インターネット等の通信技術の普及により、世界とのつながりがますます近くなり、地域や国で私たち、国際的な問題を取り巻く状況であります。グローバル化が進んでいます。その中で私たちは、国際的な問題を取り巻く状況であります。日常生活においても、国際感覚がいかせられる機会が多くあります。このたびの

東日本大震災やニュージーランドでの地震のような自然災害が世界各地で多発し、国際貢献が大きく叫ばれるようになり、その重要性も増してきました。これからは、国際的な交流なくして生活はできない時代になろうとしているのです。

しかし、国際交流を日常生活に生かし、円滑に進めていくには、国際感覚を身に付けるだけでは十分ではないと思いません。多様化したこの現代社会の中枢を担う分野へ進もうとする私たちに必要なものは、一つ一つの情報をしつかり理解するための社会的な基礎知識、世界で起こっている事実を正確に受けとめるための情報判断力、そして異文化に対する正しい評価を身に付け、自分の分析力や応用力を伸ばしていくことだと思います。

いいよいよ大学生としての新生活が始まっています。期待や不安が入り混じっています。今日、期待や不安が入り混じっています。授業はもちろんのこと、人間関係を大切にし、何事にも積極的に取り組み、新しいことに挑戦していき、四年間を有意義なものにしたいと思います。そして、社会の一員としての知識を身に付け、自己を成長させたいと思います。

最後に、経験豊かな先生方からご指導をいただき、一方向からの考え方だけでなく、幅広い考え方を学び、さまざまなことに目を向けられるよう日々努力し、常に真剣に学び続けることをお誓いし、入学の抱負とさせていただきます。

先日送り出した卒業生は、厳しい就職状況の中未就職の人もいました。残念なことです。大学としては組織強化を図りつつ、就職活動の支援を強化してきました。担当部署の奮闘で一定の成果を上げておりますが、世界的な経済不況は長

学生生活を過ごさないよう、計画的に規律をもつて過ごしてください。目標を作つて語学を習得したり、積極的にクラブ活動を行つたり、ボランティア活動に参加したり、授業中の学生生活の幅を広げてください。幅広い活動が友人関係を広げ、さまざまな経験から勉学とは違う知識を得るからです。

もう一つ入学式にふさわしくないかもしれませんのが、学生諸君だけでなくご父母の方々にもお願ひしたいことを申しあげます。それは毎年残念ながら本学に入学しながら休退学する学生がかなりいるというこ

とです。その理由はさまざまですが「進路を見直したい」という積極的理由の一方、「勉学意欲の喪失」など勉学困難化が多いのです。しかし、よく見るともと早く相談してくれれば何とか問題を解決したかも知れないというケースもあります。大学としてもできる限り対応し、問題解決に向

け相談に乗つていこうということで、本年から「学習支援チーム」(仮称)を設置しましたところです。多くの場合、自由ゆえに自分の目的、行動を定められないまま、勉学の習慣が身に付かず、授業についてゆけず、だんだん出席しなくなるというケースが多いように思います。

ご父母の方々も含めてお願いします。授業に出てなくなつたら、お子さんが大学に行かなくなつたら、支援チームに相談ください。また、失職等で授業料の支払いが困難になつたら相談ください。そういう友人がいたら相談するようアドバイスするとともに、支援チームにお知らせください。勉学の強い意欲を持つて入学した今日の気持ちを忘れないでください。私たちは皆さんと一緒に悩み、考え、対策を探つてゆきたいと思っています。ぜひ困つたら相談ください。父母の方々と緊密な連絡を取つてまいりますので、よろしくお願ひします。

私も在学時代悩みいつたん退学を考えた友人がいました。「休んでもよいから退学はするな」と説得しました。人生の現役はしなかつたけれど、退学せずなんとか全うしたことが、自分にとつて大きな力になりました」と言つて、つくづくと「大学といふところはそこに通うだけでも何かを学ばせてくれる不思議なところだなあ」と呟いていました。

角田と弥彦を望むわがキャンパスは、越後平野の四季の移ろいの中で、その時々の豊かな表情を見せてくれます。皆さんはそのままに囲まれてこれから4年間ここで時を刻み、「夢」の実現に向かって、青春の情熱を燃やしてください。自然に抱かれ育まれている感謝を持ちながら、今回の大震災であらためて感じたようにその恵みの大さきの一方で、その巨大な恐ろしさにおけるのきながら人間は自然に生かされていることへの謙虚さを感じながら生きてください。皆さん同様この春大学入学に胸を膨らませていた多くの仲間が震災の被害の中に現在いることでしょう。彼らの被災を我がことと感じる感受性を持つて、大学生活をスタートしてください。



在学生代表 情報システム学科3年
五十嵐 司

学問の追求だけでなく サークル活動にも熱を

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また、ご臨席いただきましたご父母の皆さん、本日は誠におめでとうございました。皆さんは今日から4年間の大学生活を送ることになります。4年間という長い間、短い時間はどう過ごすかは皆さん次第です。しかし、時間というものは何かをしてしまっても、していなくても過ぎていくものであります。大学生活を実りあるものにするためにも、4年間という時間を有効に使うように皆さんには心がけてほしいと私は願っています。



越智 敏夫

勉学に部活にチャレンジを

情報文化学部長

大学と高校はどう違うのか、ということをよく考える。その境界ははつきり

「教師を疑う」それが大学の学習

しているようでありながら、実はあいまいなところもある。入学年齢や在学年限、あるいは履修方法などといった制度的な側面はかなり異なる。しかし「学習」ということにおいては何が異なるのだろうか。教師が生徒を教える

といふ構造も同様であるし、最終的には教師がなんらかの評価を学生に下すということも共通している。それでもなお大学における学習と高校における学習は異なる。自主性を尊重する度合いの違いなどはよ

員は真剣に取り組んでいる。しかし、それらを前提にしても、学生は大学の教員を疑う必要がある。

教室で教員が話している内容は正しいのか。その点について学生は図書館の資料や他の書籍などに接しながら確認する必要がある。そうした作業がなければ、それは大学での学習では受け入れ暗記するということは、相手をたぶんに指摘される。しかし最も異なるのは「教師を疑う」ということではないか。

大学の教員は嘘を教えるわけではなく。それどころか各自の専門領域の成果を、なるべく正確に分かりやすく教えようと教

ます。

また、大学生活を送るに当たって、自ら考え、行動することが重要となります。自分から行動せず、何かを待つてはいるだけでは良い結果に結びつくことは少ないでしょう。ただ待つのではなく、自らが積極的に動くことを意識してください。しかし、すべて自分自身一人の力で行動しなければならないということではありません。大学には多くの人がいます。友人や先輩、教職員の方々の力を借りながら行動していくことでよりよい結果が得られると思います。また、人ととのつながりは自身の能力を高めることがあります。皆さんには多くの人と関わりを持つて、自らの可能性を広げてもらいたいです。

人と関わることに関連しますが、本学にはスポーツ系から文科系までさまざまなサークルがあります。大学生活では学問を追求することが重要ですが、勉強するためだけの学生生活を過ごすのはもったいないと思います。勉強以外にも興味のあるものに熱を入れることも必要だと思います。また、サークル活動を通じて本学生との交流のみならず、地域の方や他大学の学

生と交流することも可能になります。いろいろな人々と関係を持つことは、自分自身の世界を広げ、新たな知識・経験を得ることができます。ぜひ皆さんにはいろいろなサークルに興味を持つてほしいと思います。大学は学問を学ぶことができ、多くの人と交流できる楽しい場です。しかし、大学は社会に出るために準備期間ともいえます。社会に出ると、学生では許されていたことも許されなくなることがあります。そのため、4年間の大学生活の間に社会人が持つべき能力を理解し、得ることが必要です。自分自身の行動に責任を持たなければなりません。人のコミュニケーション能力を高めると私は考えます。皆さんには多くの人と関わりを持つて、自らの可能性を広げてもらいたいです。

最後になりましたが、皆さんの本学への入学を心から祝い、今後の大学生活が明るく、充実したものとなることを願つております。以上をもちまして歓迎の言葉とさせていただきます。

湧源

編集後記に代えて
広報委員長 桑原 悟

「がんばれ日本」：3・11 東日本大震災の被災地に向けて国内に世界中に支援の輪が広がっている。大地震、大津波の惨状に言葉を失い、加えて原発事故という未曾有の三重災害に憤りさえ覚える。一瞬にして3万人に迫る人の命が奪われ、街並みが消え、歴史・文化遺産を失い、経済活動が混乱に陥った。この現実から立ち上がりなければならぬ。この戦後最大の危機から見事復活することを、世界中が、かつて日本が敗戦の魔壊から復興したように、期待して見守っている。国の復興に全力を挙げる、そのための人材を育成するのも大学の務めでなくてはならない。

幸いにもこの春、本学では卒業式、入学式を挙行し、そして在学生は新たに1年のスタートを無事に迎えることができた。その喜びの一方で、この度の大震災での被災状況を思ふとき、深く心が痛む。また、福島の原発の状況は依然として予断を許さない。どの時点で、何をすべきか、何をしないべきか、長期に及ぶであろう灾害への対応で、我々は正しい選択をしていかなくてはならない。

小林 満男

情報システム学科 教授



新任教員紹介

担当科目
情報システム、情報システム開発、演習、卒業研究

研究分野

- (1)企業、公共分野における情報通信技術(ICT)の利活用の研究
- (2)情報通信システムの開発技法、評価方法の研究

略歴

1976年4月 日本電信電話公社入社
1985年3月 東京理科大学工学部電気工学科卒業
1998年3月 産能大学大学院経営情報学研究科修士課程修了
2006年3月 埼玉大学大学院経済科学研究科博士後期課程修了
2011年3月 NTTコミュニケーションズ株式会社退職



小山田 紀子

今春の大学卒業生の就職率が過去

月チユニジアで23年間の独裁政権が崩壊しました。続いてアラブの大國エジプトでも、30年にわたり強権政治を行ってきたムバラク政権に終止符が打たれ、これらの政変はさらにバハレーンやイエメン、リビアなど中東全域に及んでいます。このような中東・アラブの民

最低と報じられています。若者の就職難は日本だけの問題ではなく、他の先進諸国でも同様の状況が見られ、世界中でいま若者の未来が不確実のように見えます。

とくに発展途上国の若者は10～40%という高失業率に苦しんでいます。今年初頭、世界的な食料価格の高騰に直撃された中東では、政府に抗議する若者のデモが暴動に発展し、ついに1

主化のうねりに目を奪われていた時、今度は3月に大きな自然災害が日本を襲いました。巨大地震と津波は2万数千人の死者・行方不明者を出し、20万人以上の人々が避難生活を余儀なくされています。さらには原発事故が、われわれ日本人すべての日常生活を不安に陥れ、世界中

世界と日本のあり方を考える機会を提供します。大学の授業を大切にし、先生や仲間たちとの交流から大いに学び、それぞれの進むべき道を探してください。これから4年間、充実した大学生活を送られることを期待します。



岸野 清孝

情報システム学科長

最近閣諸島で発生した衝突事件、福島第1原発事故です。時々刻々変化していく状況に対し

判断、決断、実行していく強いリーダーシップが必要であることを痛感しました。日本経済は今後も良くなる見通しがつかない中で、企業は海外での成長に活路を見出しています。卒の就職難が叫ばれるなか、どのような学生を望んでいるのでしょうか。

大学では授業に出席して知識を得ることが重要ですが、単に受動的に教員から教えてもらうだけでは駄目です。自主的に情報収集し、問題を発見し、自分で解決策を考えることが要求されます。このことは勉強だけでなく部活、アルバイトなど全てに当てはまります。問題点やは、尖閣諸島で

即戦力の人材を育成する課程

大学では授業に出席して知識を得ることが重要ですが、単に受動的に教員から教えてもらうだけでは駄目です。自主的に情報収集し、問題を発見し、自分で解決策を考えることが要求されます。このことは勉強だけでなく部活、アルバイトなど全てに当てはまります。問題点やは、尖閣諸島で

情報システム学科では、即戦力の人材を育成するために日本技術者認定機構（JABE）の認証を受けた国際水準の教育課程を提供しています。成績が基準を満たすと、国際水準の技術レベルが保証される「JABEEプログラム修了生」として認定され、国家資格である技術士補の資格が得られます。さらに海外展開を図つており、現地勤務をいとわず積極的に仕事にチャレンジするような気骨のある人材を採用しようとし

壁に遭遇したときに、どのようにして解決して乗り越えることができるかが問われるのです。企業もそのような能力を備えた即戦力の人材を採用しようとし

ています。さらに、どの企業も海外展開を図つており、現地勤務をいとわず積極的に仕事にチャレンジするような気骨のある人材を望んでいます。卒業後の社会に出てからの人生が変わります。真剣に学生生活を送つてください。

NUISを去るにあたって

情報システム学科
教授 竹並 輝之

長年に渡って本学の発展にご尽力された竹並輝之教授が定年を向かえられました。竹並先生は東芝の情報処理・制御システム本部から、本学開学と同時に教授に就任され、多くの学生を育て社会に送り出していました。また、情報システム学科の小野陽子准教授が3月末日をもって退職され、横浜市立大学へ赴任されました。

たとえば、一球一球をおろそかにせず、雑念を入れず集中してその球に魂を込めて打ち込めることは、試合のときは当然ですが、重要なのは練習のときなのです。こういう技術を身に付けたいという目的を持つて集中して練習していると、あるとき突然できるようになる、階段を急に一段上がる不思議な快感です。

これは、野球やテニスに限ったことではなく、勉強でも、趣味でも、恋愛でも何にでも当てはまると思います。ぜひ、皆さんには夢中になつて打ち込めるものに魂を込めて取り組んでもらいたいと思います。学生時代のその経験は、就職活動のときにも大きな力になります。私は、毎年卒業アルバムで「一球入魂」という言葉を贈つてきました。この言葉は、私が学生時代に体育会でテニスに打ち込んでいました。

Paul Dickinson

情報文化学科 契約講師(CEP)



担当科目 CEP

研究分野

Formulaic Language
Learner Autonomy and
Motivation
Electronic Discourse and Social Media

略歴

1998 University of Newcastle, Australia.
BA (Hons) in English.
2001 Australian College of English, Sydney, Australia. Cambridge CELTA.
2010 University of Birmingham, UK. MA in Applied Linguistics.
James English School, Sendai and Yamagata. English Teacher. (2004 - 2010)
Japan International Cooperation Agency Training Center, Komagane, Nagano. Instructor. (2010)

『一球入魂』を贈り続けた17年

私は、毎年卒業アルバムで「一球入魂」という言葉を贈つてきました。この言葉は、私が学生時代に体育会でテニスに打ち込んでいました。本当にありがとうございました。

これは、野球やテニスに限ったことではなく、勉強でも、趣味でも、恋愛でも何にでも当てはまると思います。ぜひ、皆さんには夢中になつて打ち込めるものに魂を込めて取り組んでもらいたいと思います。学生時代のその経験は、就職活動のときにも大きな力になります。

私は、毎年卒業アルバムで「一球入魂」という言葉を贈つてきました。この言葉は、私が学生時代に体育会でテニスに打ち込んでいました。

留学・海外セミナー帰国報告会開く

ロシアコース



情報文化学科2年
大堀 まみ

貴重な体験生がじた

私はこの4ヶ月間、ロシアのウラジオストク市でさまざまなことを体験してきました。初めての頃は分からぬことが多く、たのじア流日間も問題に悩まされました。しかし、日々の授業や現地の人々との交際の面白さを感じるようになります。

授業や寮での生活といつた普段の生活からも、一緒に留学した仲間と協力し、寮に住んでいました。他の国人々と話すことに力つて、コミュニケーションや協力をすることの大しさを学ぶことがあります。

また、ウラジオストク市ではさまざまのイベントが行われてきましたが、特に印象深かったのはクリスマスです。クリスマスの日には中央広場に人々が集まり、出店や大きなクリスマスツリーが立ち並んでいます。夜になるとそれらが一斉に輝き、とても幻想的でした。その楽しい行事やパーティーが多くありました。

昨年度の派遣留学（情報文化学科）と海外夏期セミナー（情報システム学科）の帰国報告会が1月26日、みずき野本校の国際交流センターで開かれました。

今回5カ国の5校に参加した学生は合計53人。報告会では各コースの代表が、外国生活での文化・習慣の戸惑い、日本にいた経験がない貴重な体験、他国の留学生と友達になれたこと、苦労と感動などたくさんの思い出が報告されました。報告の後には、苦楽を共にした仲間とあらためて留学の思い出を語り合い、楽しいひと時を過ごしました。また両学科長が、留学の経験を生かし有意義な大学生活にしてほしいと激励しました。

韓国コース



情報文化学科2年
菊地 みはる

語学の上達を実感した

私はソウルにある慶熙大学に留学してきました。午前中は授業を行い、午後は本学のメンバーハウスで韓国の現代事情や習慣、歴史、文化などの講義を受講しました。歌や映画を通して韓国語を勉強し、テコンドーや書道、伝統樂器も経験しました。授業では全てが韓国語という状況にならなかったが、韓国語を理解できませんでした。それでもうれしく、自信や励み、やる気につながりました。

韓国語を公用語として、母國語の違う国の人々といろんな話をし、何かを共有できたということが信じられないです。外国人との友達とたくさん遊んだこと、日本語を使つて話したことが上達に繋がりました。間違いなく、繰り返し話し聞き身に付

りました。現代の社会はグローバル化が進み、他国とのコミュニケーションが重要になってきています。ロシアで得た貴重な経験をこれとお伝えしたいと思います。他の人生で生かしていきたいと思いま

りました。私がクラスにはイギリス、イタリア、ブルガリア、タイ、中国、サウジアラビア、ラオスなど多くの国の人々がいました。した

り、良い思い出をつくることができました。私はとつてこのロシアでの留学は海外経験であり、他の文化を直接見て感じるこ

中国コース



情報文化学科2年
吉田 高之

多くの外国人とも友達に

私たちちは中国の北京師範大学に留学して、4か月間過ごしました。留学当初は本当に何も分からなく、多くの人に迷惑をかけてしましました。さらには毎日中国語をやつてきてきた。最初の頃は勉強の方は全くつかないままでした。留学生からは本当に何も分からなく、多くの人に迷惑をかけられました。しかし、何かを共有できました。それがとてもうれしくなりました。それから、上達を実感するようになりました。それは自分では全く普通に指示されたことです。中国語を勉強して、少しありませんが韓国語なので、日本語を理解できました。

最初は難しく感じました。それから何を言つたかが分からず困惑しました。しかし、何を言つたかが分からず切なかつたのです。かたた全のいふが聞かれました。それから何を言つたかが分からず、何を言つたかが耳に耳が慣れほんの少しだけ徐に耳が慣れるときがあります。そして、本当にこのクラスにいて良いのかと何度も思いました。しかし、とてもそう思っています。そこで、本当にこのクラスにいるが上がるだけではなく日本では全く質問されてしまつた時は完全に無くなっています。しかし、なぜか自分で分かるその姿など、本当に耳が慣れほんの少しだけ徐に耳が慣れるときがあります。そして、本当にこのクラスにいて良いのかと何度も思いました。しかし、とてもそう思っています。そこで、本当にこのクラスにいるが上がるだけ徐に耳が慣れるときあります。

中国では語学だけではなく生活面も充実しています。中間テストが近づいた頃になると、完璧ではありませんが、大体分かるようになります。また、クラスの人から必ず友達との連絡を途絶えさせないようにして、韓国語を積極的に使うなど小さなことから目

で努力していきたいと思います。件が起り心配も多少あります。しかし、それを忘れるくらい充実したが、それも忘れられないことがあります。留学で得た多くのことを無駄にしないよう、韓国で知り合った友達との連絡を途絶えさせないようにして、韓国語を積極的に使いたいと思っています。まずは買い物ひとつにしても、うまく伝わらず理解できずに苦労したり、飲みに行つたりもしました。しかし、1ヵ月ほどで店員さんやおじさんたちとも話せるようになります。友達と一緒に、町にいる店員やお客様を思い通りに伝えることができ、これで生きているよ

異文化に戸惑い、感動、貴重な体験

異文化理解の意義を実感



情報文化学科2年
樋口 正之

24日 私たちアメリカコースは8月から12月18日までの約4ヶ月

アメリカコース



私たち8月1日から9月5日までの5週間、アルバータ大学へ留学してきました。カナダ大工のエドモントンでは飛行機を乗りました。最初は時差に悩まされた人もいましたが、2週間はホームステイでした。最初は時差に悩まされた人もいましたが、2週間はホームステイでした。最初は時差に悩まされた人もいましたが、2週間はホームステイでした。最初は時差に悩まされた人もいましたが、2週間はホームステイでした。最初は時差に悩まされた人もいましたが、2週間はホームステイでした。

この2週間は、食事の支度などでの大半の時間を費やされました。日本でいたとしても、毎日10時に床に就くという調な毎日をぐうたら過ごしました。しかし、日本でいたとしても、毎日10時に床に就くという調な毎日をぐうたら過ごしました。しかし、日本でいたとしても、毎日10時に床に就くとい

うたついたかもしない夏休みは、充実していました。しかし、日本でいたとしても、毎日10時に床に就くとい

うたついたかもしない夏休みは、充実していました。しかし、日本でいたとしても、毎日10時に床に就くとい

うたついたかもしない夏休みは、充実していました。しかし、日本でいたとしても、毎日10時に床に就くとい

うたついたかもしない夏休みは、充実していました。しかし、日本でいたとしても、毎日10時に床に就くとい

カナダコース



情報システム学科
中野 沙紀



私たち8月1日から9月5日までの5週間、アルバータ大学のサマープログラムに登りました。ホームステイ週間が始まりました。ホームステイでは、1人か2人で1家庭にお世話になりました。私はナイジニアから南米方面出身の家庭や、パキスタン人の家庭などさまざまでした。私は移住者がたくさんいて、イングリッシュ人の家庭や、パキスタン人の家庭などさまざまでした。私はナイジニアから南米方面出身の家庭や、パキスタン人の家庭などさまざまでした。私はナイジニアから南米方面出身の家庭や、パキスタン人の家庭などさまざまでした。私はナイジニアから南米方面出身の家庭や、パキスタン人の家庭などさまざまでした。私はナイジニアから南米方面出身の家庭や、パキスタン人の家庭などさまざまでした。私はナイジニアから南米方面出身の家庭や、パキスタン人の家庭などさまざまでした。

この2週間は、食事の支度などでの大半の時間を費やされました。日本でいたとしても、毎日10時に床に就くとい

うたついたかもしない夏休みは、充実していました。しかし、日本でいたとしても、毎日10時に床に就くとい

うたついたかもしない夏休みは、充実していました。しかし、日本でいたとしても、毎日10時に床に就くとい

うたついたかもしない夏休みは、充実していました。しかし、日本でいたとしても、毎日10時に床に就くとい

うたついたかもしない夏休みは、充実していました。しかし、日本でいたとしても、毎日10時に床に就くとい

うたついたかもしない夏休みは、充実していました。しかし、日本でいたとしても、毎日10時に床に就くとい

OPEN CAMPUS 2011 オープンキャンパス

高校生はじめどなたでもご参加できます!

1回目 7/24日 2回目 8/7日 3回目 9/11日
AM10:00~PM3:30 AM12:00~PM3:30

開催日
会場
新潟国際情報大学 本校 新潟市西区みづき野3-1-1 (JR越後赤塚駅下車 徒歩7分)

※変更となる場合もありますので事前にご確認ください。

- 学科およびカリキュラム説明
- 模擬講義
- 個別入試相談
- 学生との懇談
- 入試情報説明
- コンピュータ実習
- 就職相談
- 学内見学
- 入試問題の傾向と対策
- 語学体験
- 海外留学相談
- 保護者向けプログラム



参加
お申込み

高校の進路指導の先生、
もしくは右記までお申込みください。

お問い合わせ先
新潟国際情報大学 入試・広報課

〒950-2292 新潟市西区みづき野3-1-1
TEL025-239-3111 FAX025-239-3690

E-mail
soudan@nus.ac.jp

必要とされることを学んだ

情報システム学科 磐野 圭子

「4年間は長いだろう」そう思いながら始まった大学生活も、振り返るとあつた。という間に過ぎたようになります。単位は順調に得ることができます。しかし、人間関係は恵まれ、サークル活動やアルバイトも楽しめ、選挙の開票作業や学会の受け付け、後輩の就職活動の支援などに携わってきました。一言で表すならば、バランスよくさまざまなことができた学生時代でした。

このように活動してきて、自分の居場所があるということをうれしく思うようになりました。きっかけは、サークルを卒業するときに後輩からもらったメッセージです。「人間は一人では生きていけない。それを★AMEcam☆で知った」「この言葉で、自分を受け入れてくれる、必要としてくれる、頼りにしてくれることが、私にとっての幸せだと気付いたのです。春からは働くことになりますが、心のどこかで、自分一人で何でもできるようにならない」と不安に思っていました。しかし、職場という居場所があり、社員として受け入れられる必要とされることに感謝しながら、社会人として頑張りたいです。

諦めずに挑んだ就職戦線

情報システム学科 佐藤 勇太

高校時代は実家の長岡で暮らしていましたが、大学進学をきっかけに新潟で一人暮らしを始めました。私の大学生活は、初めての人暮らしということもあり、期待だけではなく不安も大きなストレスでした。しかし、その不安は、大学に入つてすぐに入つたサークルActionによって解消されました。そこで得られた友人は、自分の大学生活を楽しむものしてくれました。また、大学生活をおくる上で、情報処理の資格を取得する、という目標を決めていました。自分なりの勉強方法で努力を続けた結果、3年の春にITパスポート、秋に基本技術者試験に合格することができました。

そして意気揚々と挑んだ就職活動では、見事粉碎されました。希望する企業からは、あなたの未来をお祈りしていますが、3年の春にITパスポート、秋に基本技術者試験に合格することができました。自分が立て続けに送られ、自分が立て続けに送られ、自分が立てる存在そのものを疑う毎日でした。それでも、諦めずに活動を続けることによって、希望するSE職での仕事を内定を頂くことができました。今はまた、大学に入学したときと同じように不安を持つています。しかし、職場といふ居場所があり、大学での経験を生かして、頑張つてきました。今までも、諦めずに活動を続けることによって、希望するSE職での仕事を内定を頂くことができました。

思いがけない縁と宝

情報文化学科 山田 啓介

福沢諭吉が「人生の有様は：知恵の事についても思いの外に愚を働き、思いの外に事業を遂げざることとは？」と人から尋ねられた機会があつた。そこで入学式から卒業まで振り返つてみたが、特にやり残したことには思いつかなかつた。しかし、4年前の自分が現在の自分を見たことは、とても充実した4年間を過ごせたと思う。1年の初めは不安でいっぱいだったが、オリエンテーションやCEP、ゼミを通じて友達ができた。授業の空き時間に佐潟や海へ行つたり、学食で友達と話したりすることが楽しかった。

卒業にはもちろん126の単位が必要だが、それ以上に4年間で得たものは数え切れないほど多かった。たくさんの人に支えられたからこそ「やり残したことは無い」と思える時間を過ごせた。

やり残したことは無い

情報文化学科 町屋 みなみ

卒業の時期を迎えて、4年前の自分が現在の自分を見たことは、とても充実した4年間を過ごせたと思う。1年の初めは不安でいっぱいだったが、オリエンテーションやCEP、ゼミを通じて友達ができた。授業の空き時間に佐潟や海へ行つたり、学食で友達と話したりすることが楽しかった。

2年の後期には夢だったアメリカ留学を経験して、世界に対する興味が広がつただけでなく、日本や新潟についてももっと知らないけれどならないと感じた。3年ではインターネットやボランティア活動を通じて、就職や将来について考えるようになつた。4年の最後の一年間は忙しかつたが、就職活動を経験したこと、やらなければいけないことが全部できて良かった。

前号で記載漏れのあった活動を紹介します。

教員の活動（2010年下半期・本人申告による）

前号で記載漏れのあった活動を紹介します。

1)研究論文・図書

小林 元裕（情報文化学科准教授）

・（2010年7月）中村義他編『近代日中関係史人名辞典』東京堂出版（619頁）

佐々木 寛（情報文化学科教授）

・（2010年8月）『地方自治体の安全保障』明石書店（編著全210頁）

2)学会・研究会報告

小林 元裕（情報文化学科准教授）

・（2010年11月13日）「華北分離工作期北京の日本居留民」、「国際ワークショップ 日中戦争の深層」、新潟大学プロジェクト「環東アジア地域におけるネットワーク群の展開と構成に関する実証的研究」

佐々木 寛（情報文化学科教授）

・（2010年9月17日）東アジアにおける二つの「核」問題と「共生」の条件（北京

3)その他

佐々木 寛（情報文化学科教授）

・講演（2010年9月4日）「ヒロシマ・ナガサキから学ぶ—未来に向かって平和な社会を築いていくために」魚沼市教育委員会・中央公民館主催「魚沼市民大学」（魚沼市小出郷文化会館）
 ・対談（2010年9月12日）映画『立ち上がるイラク帰還兵』木村修監督（市民映画館シネ・ウインド）
 ・講演（2010年11月12日）「原子力発電と民主主義」第14回ナイン・セミナー（クロスパルにいがた）
 ・審査員（2010年12月11日）「国際理解教育プレゼンテーションコンテスト」新潟県国際交流協会主催（朱鷺メッセ）

新潟国際情報大学長
平山 征夫青春の輝きを忘れずに
寄り掛からず生きてゆこう

今日、ここに新潟国際情報大学の第14回卒業式を迎えるに当たり、まずもつてめでたく卒業式を迎えた卒業生の皆さんに心より「卒業、おめでとう」とお祝いを申しあげたいと思います。また、ここにご来賓の方々、ご父母の皆さまにも大勢ご臨席を賜りましたことに深く感謝申しあげます。特にご父母の皆さまにおかれましては、大きな慶びをもつて今までの日を迎えたこととご推察申しあげます。新潟国際情報大学の役員教職員一同を代表いたしまして、皆さまに心からの祝福と御礼を申しあげます。

卒業生の皆さん、4年前大きな期待に胸を膨らませて本学に入学しました。早いものであれから4年がたちました。自然豊かなみずき野での大学生生活はどうでしたか。友人や教師との交わり、紅葉祭などの行事活動など今たくさん思い出が皆さん頭の中を去来していることでしょう。そうした大学時代の思い出は輝いていた青春でした。4年間この大学で学んだことがこれから長い人生において育つてゆく木流などが、人間としての自立のための基礎をいかに築いてくれたかをいざれることでしよう。4年間この大学で学んだことが

の根のよう皆さんを支え、土から水を吸い上げてくれることでしょう。

この春、みずき野から巣立つてゆく情報文化学科111名、情報システム学科185名、合計296名の卒業生諸君にその未

來に実り多かれとエールを送ります。しかし、これから皆さんの生活の舞台になる現実社会は、就職活動を通じていやというほど感じられたように極めて厳しい状況にあります。2008年のリーマンショック以降世界経済が低迷し、とくにソブリンリスクの表面化など市場主義資本主義の行き詰まりは構造的ともいえる経済の長期低迷を生じています。ほかにも政権交代後の政治の迷走、中東における民主化運動などまさに激動の時代です。そして皆さんの卒業直前の3月11日、「東日本大震災」が発生しました。わが国最大、世界的にも未曾有の大規模地震とその後の大津波によりたくさんの方々の尊い命が失われてしまいました。誠に傷ましいことで、亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。津波により

跡形も無くなった町の様子に呆然としてしまいます。これから長くつらい復興への道のりを考えますと、何か支援しなくてはならないことは学長として誠に残念であり、遺憾であると思っています。昨年の厳しい状況を踏まえて大学としてキャリア支援課の新設など支援体制を大幅強化して臨んだわけですが、依然厳しい結果となりました。未就職の皆さんには、大学として卒業後も極力支援してまいりますので、密接にご連絡を取ってください。

最近のこうした厳しい経済社会状況を見ていて一番気になるのは、政治家も経済人も多くの人がこうした事態を招いた背景に、少なくとも何らかの責任があることを忘れ、皆誰かのせいのように言つてゐることです。卒業に当たつて皆さんに申しあげたことは、いつまでも青春の夢を持つてその実現に努力してほしいということと、もう一つは人のせいにしない自分が責任を持つ人生を送つてほしいということです。誰の人生でもない自分の人生を人のせいにしても何も解決にはならないからです。自ら立ち上がり生きてゆかなければならぬのです。今日、ここにこうして卒業式を迎えたことができた皆さんにもそのことを思つていいです。それでも人はそこから立ち上がり生きてゆかなければならぬのです。またこの大学時代の勉学や友人ととの交流など、人間としての自立のための基礎をいかに築いてくれたかをいざれることでしよう。4年間この大学で学んだことは、50歳台になつてからでした。それから

皆さんも氷河期を上回るという厳しい就職環境の中で、今日の卒業式を迎えました。昨年よりはまだましましても、一部の卒業生を未就職のまま送りださなければなりません。詩人茨木のり子さんの「自分の感受性を持っていますので、最後の「自分の感受性を

JABEE認定プログラム
20人に修了証書

平成22年度の日本技術者教育認定機構（JABEE）情報システム技術プログラムの修了証書授与式が20日、卒業式に先立って同会場のりゅーとぴあコンサートホールで行われました。

情報システム技術プログラムを無事修了したのは20人で、学長から修了証書が授与されました。

このプログラムはJABEEが認定する教育制度で、修了生は国家資格である「技術士」の技術士第一次試験合格者と同等に扱われ、第一次試験免除の特典が与えられます。また、所定の登録を行うことによって「技術士補」の資格を取得することができます。



くらい自分で守れ、ばかものよ」という言葉はいつも私の心を叱りつけています。明日から社会人として自立してゆかなければ時代のせいにするな」「倚りかからず」生きゆけという叫びの言葉を私のはなむけの言葉として贈ります。

四十数年前に送った私の青春時代より、皆さんの現在ははるかに豊かです。でも貧しいから持つて互いに助け合う心や、自分で人生を切り拓いてゆこうという気概や、小さいけれど心躍らした夢を持つ心など、むしろ持ちにくくなっているように思います。皆さんこれからの方が生き難いように見えます。それは経済的豊かさだけが人間を幸せにするわけではないからです。それが人間を幸せにするわけではないからです。もつと大切なことがあります。そのことをこの大学で学んだことをベースに考えて生きていってください。何かで行き詰ったとき、もう一度勇気を奮い起こそうと思つたら、この詩の言葉を思い出してください。

自立した精神を持つている人は、他の人から尊敬され信用されます。生きてゆくうえで一番力になるのはどれだけ多くの人がいて教えてくれるわけではありません。仕事をとつてみても自分で考え、判断し、説明し、理解してもらわなくてはなりません。それは必ずしも容易なことではありません。考える力が必要だからです。信用を得られるかどうかはどれだけ深い思考力を持つているか、どれだけ適確な判断をする力を持つておられます。卒業後もこの大学で身に付けた、考える力を引き続きさらに磨いていくください。そういうことはその分だけ多くの可能性を持つているということです。でもその夢ともいえる可能性を実現しようという瑞々しくそして強い意志がなければ夢に終わる



理事長祝辞

学校法人 新潟平成学院
理事长 関根 秀樹

人生ドラマどう描く

目的を持つて大切に

本日296名の皆さんが、新潟国際情報大学を卒立つていかれます。大学4年間の学生生活の中で、自らの青春を大いに燃焼させることができたでしょうか。そして多くの思い出を持つて、いよいよ社会に出て行かれることになります。私は、「おめでとう」と心からのお祝いを申し上げます。本日は、多数のご父母の方々がこの会場にお出でになつておられます。また日頃、大学のいろいろな活動に、あるいは就職などにご支援をいただいている企業の方々、また、多くの教職員が皆さんの晴れの姿を見守るために列席されておられます。これら先輩の方々のご好意に皆さんと共に感謝を申し上げる次第であります。

さて、皆さんの大多数は、実社会に出ているのに上司が評価してくれないと感じることがあるかも知れません。しかし、超就職職されることになります。しかし、超就職

でしょう。皆さんの人生という航海が大波をたくましく乗り越えてゆく勇気と深い判断力に満ちたものであることを強く祈念します。

最後に卒業後も本学に熱い思いを持ち続けてください。そのことを切にお願いします。それは逆に言えば、私たちはいつまでも皆さんが本学を卒業したこと誇りに思える大学にしなければならないということです。みづき野での皆さんとは今日でいつ

たんお別れしますが、これからは卒業生と季節の繰り返しが新たな本学の歴史を刻むでしょう。社会人として新たな人生の歴史を刻む皆さんにあらためて卒業のお祝いを申しあげるとともに、その前途に幸多かれど切に願いながら私の門出に当たつてのお祝いの言葉といたします。

氷河期と言われる中で、いまだに就職未確定の方も居られることを思うと、素直に喜んでばかりではいられません。皆さんは、今まさに人生の新たなスタートを切られたわけです。これから一生かけて自分という人生のドラマをどう描いて行くことになるのか、それを演ずるのは自分自身ですので、「何かをしよう」という目標を持つて、自分を大切にして歩んで行くことを願っています。

最近、ややもすると目的を見失つて、刹那的に生きようとする風潮が見受けられます。会社に入つても、生活の糧としての給料をもらうために仕事をする、趣味やレジャーに生きがいを求める人もおります。人それぞれの人生ですからそれも良いかも知れません。しかし結局は、みんなもつと高いレベルの目的を求めるはずであります。世の中がどのように変わつても「仕事に打ち込んで、世の中の役に立ち、自分自身も幸せだった」と感じられる生き方が、最終的にみんなが求めているものではないでしょうか。

祝電							
新潟県知事	新潟市長	日本私立大學協会 会長	株式会社ホタル清風苑 代表取締役社長	株式会社総研システムズ 代表取締役社長	新潟綜合警備保障株式会社 代表取締役	株式会社ミロク情報サービス 代表取締役社長	セコム上信越株式会社 代表取締役会長
野沢 慎吾	高畠 陽一	廣田 幹人	是枝 周樹	泉田 裕彦	大沼 昭	篠田 裕一	清水 保
近藤 雄治							

力や業績は自分が評価するものではなく、他人が評価するものです。「自分の能力に謙虚であることの大切さ」に気づいてほしいと思います。

皆さんのが入学された4年前、これほどまでに世界情勢は混沌とし、日本の政治・経済の状況が全く混沌を極め、ましてやこの度の東日本大震災や福島県の原子力発電所の事故が起ることは想像だにできませんでした。このような視界不良の時代は、これからも長く続くと思わざるをえません。これまでの過去の経験をもつて律することができます。このような現象が現れています。このような時代にこそ、みづき野の学び舎で学んだ「自分の頭で考え、分析し、判断し、構成する」能力を存分に發揮してください。そして気力をを持って自らを励まし、これから的人生を生きてください。



学校法人 新潟平成学院
前理事長・前学長 武藤 輝一

ファイトと自らを鼓舞し “夢創る道”を歩もう

していながら、十数年後、脳内出血で倒れ、お見舞いに参上したところ「飲み過ぎなければ良かった」とさめざめと涙を流しておられたことを思い出します。後悔先に立たず。定期健康診断は必ず受け、必要な治療は早めに受けてください。後戻りのない片道切符の大切な人生であります。本学の校歌の中にある“夢創る道”を“歩み有意義な人生を送ろうではあります。皆さんのがしつかりした信念を持ち、心温かく、人間味豊かな社会人として活躍されますよう心から期待し、祈念していただきます。

卒業に当たつての私のお祝いの言葉とさせ

第14回新潟国際情報大学卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんには本日新潟国際情報大学の所定の教科をつづがなく修得し卒業できたという喜びと、これから一社会人として活躍できるという喜びがあることと存じます。4年前の皆さんの入学式の際には、在学中に自主性、自立性を身に付けるようにとお話ししましたが、本日はご卒業の機会に、これから将来に向けて3つの事をお話ししたいと存じます。

第1はこれから勤めの中で、身も心も大変疲れ意気消沈することがあるかもしれません、こういうときには自分自身“ファイト”と強く掛け自らを鼓舞し、難関にへこたれず頑張ってください。第2には精神的に悩み鬱状態となることがあるかもしれません、スポーツや趣味を生かしても離脱することができない場合は躊躇せずに精神科医に相談してください。一人で悩み続けるのは禁物です。第3には勤務先における定期の成人健診などは必ず受けしてください。私はこれまでの人生で6回の手術を受けておりますが、皮膚癌と胃癌の2回の手術があります。幸い早期診断、早期治療で再発なく過ごしております。私の新潟大学第一外科の先輩で40歳台に高血圧がありながら、お酒をたくさん飲み「なあに、病気になることは無いさ」と大言壯語



卒業生答辭

(総代)情報システム学科
田中 伸明

私は4年間、情報システム学科で学んできました。この学科を選んだのは高校時代のある失敗がきっかけでした。情報Aの授業の試験で、課題をフロッピーディスクに保存する必要がありました。当時の私は操作がよく分かつておらず、間違えて別の場所に保存してしまいました。さらにその間違いに気付かずに、課題が保存されていないフロッピーを提出してしまったのです。

このような間違いは二度としたくないという気持ちと、コンピュータや情報システムを十分理解した上で使えるようになります。

このような考え方を強く抱くようになりました。

そんな折、叔父から新潟国際情報大学は雾囲気も良くていい大学だと勧められました。調べてみると私が希望していたことが学べる学科があることが分かり、本学へ入学しました。

大学では、情報システムに必要な知識・技術だけでなく、経営・統計や語学をはじめ、広い分野を学ぶことができました。毎日、朝から日が暮れるまで講義を受けている間に、私たちにも一つの節目がやってまいりました。

本日は、平山学長をはじめ、諸先生方、ご来賓の皆さんのご臨席を賜り、このよう

に盛大な卒業式を迎えることができましたこと、卒業生一同、心より感謝しております。本日、私を含め、296名が卒業することとなりました。卒業までご支援を賜った全ての方々に、卒業生を代表して厚く御礼申し上げます。

今、卒業生一人ひとりがそれぞれの学生

生活における、さまざまな思い出や感情に溢れているものと思います。私たちが新潟国際情報大学に、期待と不安を胸に抱いておられたことを思い出します。後悔先に立たず。定期健康診断は必ず受け、必要な治療は早めに受けてください。後輩たちが、ぜひ使ってみたいと言つてくれました。このときの、制作した本人だけではなく、第三者が利用してくれるシステムが提供できたという達成感や充実感は授業からは得られないでしょう。このように、大学生活では学問にとどまらず、物事に対する姿勢や考え方など学ぶことも多くあります。この4年間はこれまで、教職員の皆さん、両親や、友人などの多くの人々の支えがあつたからこそあり、そのおかげで私たちは今日に至ることができました。

私は4年間、情報システム学科で学んできました。この学科を選んだのは高校時代のある失敗がきっかけでした。情報Aの授業の試験で、課題をフロッピーディスクに保存する必要がありました。当時の私は操作がよく分かつておらず、間違えて別の場所に保存してしまいました。さらにその間違いに気付かずに、課題が保存されていないフロッピーを提出してしまったのです。

このような間違いは二度としたくないという気持ちと、コンピュータや情報システムを十分理解した上で使えるようになります。このような考え方を強く抱くようになりました。

今日を節目として、私たちはそれぞれ新しい道へと進みます。これから私たちを待ち受けているのは、決して楽しいことばかりではありません。それでも立ち止まってばかりもいられません。この大学4年間で得た知識と経験を糧に、諦めず努力し続けることで、自分との周囲だけでなく、ひいては社会にも良い影響を与える、その可能性は私たち全てもあります。私たちは、それぞれの目標に向かい、今後もよりいつそう励んで参ります。

最後になりましたが、ご指導を賜りました、平山学長をはじめとする教職員の皆さん、今日まで温かく見守ってくれた家族に感謝致します。本日ご臨席の方々に心より感謝致します。本日ご臨席の皆さん、後輩の皆さんのご活躍とご健闘、ならびに新潟国際情報大学のさらなる発展を願い、答辞とさせていただきます。

平成22年度(第14回)卒業式が3月20日、新潟市民芸術文化会館(りゅーとぴあ)コンサートホールで行われ、296人(情報文化学科111人、情報システム学科185人)の卒業生が大きな希望と目標を胸に社会へ果立ちました。

式典では先ず学位記授与が行われ、晴れがましく卒業生全員が名前を呼ばれて起立し、両学科代表に賞状と記念品が平山征夫学長から贈られました。平山学長は式辞で「まさに激動の時代だからこそ、立ち

激動の時代だからこそ勇気を 人生という航海を乗り越えよう

上がって生きてゆこう。いつまでも青春の輝きを忘れずに、皆さん的人生という航海が、大波をたくましく乗り越えてゆく勇気と深い判断力に満ちたものであるように」と激励し、詩人茨木のり子の作品を引用して「寄り掛からず生きてゆけ」という言葉をはなむけに贈りました。

これに対し、卒業生を代表して情報システム学科の田中伸明さんが

「今日を節目に新しい道へ進みます。厳しい時代背景であっても諦めずに行動し、立ち止まらず学んだ知識を糧に努力し続け目標に向かいます」と力強く答辭を述べました。

最後には校歌「空がある風がある光がある」を、吹奏楽部の演奏で卒業生と教職員と会場の父母も一緒にになって歌い、ホールに響く温かい大きな拍手で前途を祝福しました。



第14回までの卒業生は合計4,109人に

年 度	卒業者数	情報文化学科	情報システム学科
平成9年度(第 1回)	295人	116人	179人
10年度(第 2回)	290人	124人	166人
11年度(第 3回)	303人	126人	177人
12年度(第 4回)	294人	114人	180人
13年度(第 5回)	291人	118人	173人
14年度(第 6回)	277人	111人	166人
15年度(第 7回)	314人	118人	196人
16年度(第 8回)	294人	115人	179人
17年度(第 9回)	299人	121人	178人
18年度(第10回)	278人	110人	168人
19年度(第11回)	312人	126人	186人
20年度(第12回)	285人	117人	168人
21年度(第13回)	267人	105人	162人
22年度(第14回)	310人	117人	193人
合 計	4,109人	1,638人	2,471人

※9月卒業生含む

平成22年度卒業式

296人が旅立ち



東日本大震災で黙祷・募金

式典に先立って、3・11東日本大震災を受け、参加者全員で犠牲者に黙祷をささげました。また、ホール入り口では学友会が義援金を募り、晴れ着やスーツ姿の卒業生や父母たちが募金箱に歩み寄って、呼びかけに応じていました。寄せられた義援金は日赤を通じ被災地へ送られます。



情報文化学科 学術賞 山田 啓介

在学中は勉学に励んで優秀な成績を修め、さらに学内においては自主的に勉強会を組織し、また学外においても社会人主体の自主講座などに参加するなどして知的好奇心旺盛な行動は高く評価できる。平成21年度に第1種資格取得奨学金(TOEIC)を取得している。

情報文化学科 池 若葉 課外活動賞

本学バドミントン部員として北信越大学バドミントン選手権大会をはじめ、主な大会において活躍し、優秀な成績を挙げた。本学の課外活動の活性化に大いに貢献した。

学長賞(学業成績優秀者) 葛西 麻衣子

情報文化学科
情報システム学科(総代)
田中 伸明

平成22年度
卒業生特別表彰